



**Azarasi**

AsciiDoctor-diagram

# Table of Contents

1. asciidoctor-pdf-CJKのテスト .....	1
1.1. 単純列挙 .....	1
1.2. 順序なしリスト .....	1
1.3. 順序ありリスト .....	1
1.4. table .....	2

# 1. asciidoctor-pdf-CJKのテスト

## 1.1. 単純列挙

### 基本フロー

- 1) 衛星管制ユーザは地上局から衛星ヘリアルタイムコマンドを送信する。
- 2) 標準ミドルウェアはSMUハードウェアからコマンドをTC Flame形式で入力する。
- 3) 標準ミドルウェアはTCフレームからTC packetを復元（デパケット）して、TC packetが正しいことを確認する。
- 4) DHFSはTC packetをRTコマンドキューに登録する。
- 5) DHFSは各種コマンドキュー（RT、TL、AT、RQ、STコマンドキュー）に登録されたTC packetについて、優先順位テーブルに基づいたコマンド配信順序のスケジューリングを行う。
- 6) DHFSはスケジューリングされた結果に従い、各種コマンドキューからTC packetを1つ選び、内容が正しいことを確認し、TC packetを発行する。  
（標準ミドルウェアを利用してコマンドを配信できる状態にする。）
- 7) 標準ミドルウェアは、TC packetをユーザ機器またはDHFS自身に配信する。配信先はTC packetのAPIDにより指定する[TBD]。
- 8) DHFSは配信したコマンドをコマンド履歴として記録する。
- 9) ユーザ機器またはDHFSは配信されたTC packetを受信し、コマンドを実行する。
- 10) 衛星管制ユーザはCI-HKの変化を確認することにより、コマンドが実行されたことを確認する。

## 1.2. 順序なしリスト

### ・基本フロー

- 衛星管制ユーザは地上局から衛星ヘリアルタイムコマンドを送信する。
- 標準ミドルウェアはSMUハードウェアからコマンドをTC Flame形式で入力する。
- 標準ミドルウェアはTCフレームからTC packetを復元（デパケット）して、TC packetが正しいことを確認する。
- DHFSはTC packetをRTコマンドキューに登録する。
- DHFSは各種コマンドキュー（RT、TL、AT、RQ、STコマンドキュー）に登録されたTC packetについて、優先順位テーブルに基づいたコマンド配信順序のスケジューリングを行う。
- DHFSはスケジューリングされた結果に従い、各種コマンドキューからTC packetを1つ選び、内容が正しいことを確認し、TC packetを発行する。（標準ミドルウェアを利用してコマンドを配信できる状態にする。）
- 標準ミドルウェアは、TC packetをユーザ機器またはDHFS自身に配信する。配信先はTC packetのAPIDにより指定する[TBD]。
- DHFSは配信したコマンドをコマンド履歴として記録する。
- ユーザ機器またはDHFSは配信されたTC packetを受信し、コマンドを実行する。
- 衛星管制ユーザはCI-HKの変化を確認することにより、コマンドが実行されたことを確認する。

## 1.3. 順序ありリスト

### 1. 基本フロー

- a. 衛星管制ユーザは地上局から衛星ヘリアルタイムコマンドを送信する。

- b. 標準ミドルウェアはSMUハードウェアからコマンドをTC Flame形式で入力する。
- c. 標準ミドルウェアはTCフレームからTC packetを復元（デパケット）して、TC packetが正しいことを確認する。
- d. DHFSはTC packetをRTコマンドキューに登録する。
- e. DHFSは各種コマンドキュー（RT、TL、AT、RQ、STコマンドキュー）に登録されたTC packetについて、優先順位テーブルに基づいたコマンド配信順序のスケジューリングを行う。
- f. DHFSはスケジューリングされた結果に従い、各種コマンドキューからTC packetを1つ選び、内容が正しいことを確認し、TC packetを発行する。（標準ミドルウェアを利用してコマンドを配信できる状態にする。）
- g. 標準ミドルウェアは、TC packetをユーザ機器またはDHFS自身に配信する。配信先はTC packetのAPIDにより指定する[TBD]。
- h. DHFSは配信したコマンドをコマンド履歴として記録する。
- i. ユーザ機器またはDHFSは配信されたTC packetを受信し、コマンドを実行する。
- j. 衛星管制ユーザはCI-HKの変化を確認することにより、コマンドが実行されたことを確認する。

## 1.4. table

### h. 基本フロー

- 1) 衛星管制ユーザは地上局から衛星ヘリアルタイムコマンドを送信する。
- 2) 標準ミドルウェアはSMUハードウェアからコマンドをTC Flame形式で入力する。
- 3) 標準ミドルウェアはTCフレームからTC packetを復元（デパケット）して、TC packetが正しいことを確認する。
- 4) DHFSはTC packetをRTコマンドキューに登録する。
- 5) DHFSは各種コマンドキュー（RT、TL、AT、RQ、STコマンドキュー）に登録されたTC packetについて、優先順位テーブルに基づいたコマンド配信順序のスケジューリングを行う。
- 6) DHFSはスケジューリングされた結果に従い、各種コマンドキューからTC packetを1つ選び、内容が正しいことを確認し、TC packetを発行する。（標準ミドルウェアを利用してコマンドを配信できる状態にする。）
- 7) 標準ミドルウェアは、TC packetをユーザ機器またはDHFS自身に配信する。配信先はTC packetのAPIDにより指定する[TBD]。
- 8) DHFSは配信したコマンドをコマンド履歴として記録する。
- 9) ユーザ機器またはDHFSは配信されたTC packetを受信し、コマンドを実行する。
- 10) 衛星管制ユーザはCI-HKの変化を確認することにより、コマンドが実行されたことを確認する。